

《京都》御所と離宮の葉(おり)



其の八

— 桂離宮 —

引手金物 観

桂離宮は計算し尽くされた建築美・庭園美がよく評価されていますが、今回は建具の引手金物にスポットを当ててみます。

桂離宮は4つの御茶屋と御殿などの建物があり、襖や杉戸には様々な意匠の引手金物が使われています。参観順路からは、しょうきんてい しょういけん げっぽろう松琴亭、笑意軒や月波楼で工夫を凝らした引手をご覧になることができます。



①松琴亭・結紐形引手



②松琴亭・螺貝形引手

松琴亭には、紐を結んだ形を表した結紐形引手(写真:①)があります。「手掛かり」と呼ばれる手をかける部分を袋に見立て、巾着袋を模しているといわれています。巾着袋には宝物を入れることから「宝尽し」文様の一つに挙げられています。他には螺貝形引手(写真:②)があり、こちらは法螺貝を表しているといわれています。法螺貝等の貝は中国では八宝の一つで吉祥文様として扱われ、日本には「宝尽し」文様の一つとして伝わったとされています。



③笑意軒・矢形引手

笑意軒には、矢をモチーフに作成された矢形引手(写真:③)があります。こちらの矢は、矢の先(鏃・矢尻)が狩股と呼ばれる二つに分かれているのが特徴です。

月波楼には、ひがた杼形引手(写真:④)があります。ひ杼とは機織りの織物を織る際によこいと・めきいと緯糸を通す時に用いる道具です。

これらの引手は金具師 かちよう嘉長が制作しました。嘉長は伊予(現在の愛媛)の松山出身で豊臣秀吉の御用などを勤めたため、京都に在住したといわれている人物です。

この他にも、御殿には様々な意匠の引手金物があり、現在は桂離宮参観者休所にてその一部を展示しています。



④月波楼・杼形引手

— 京都御所 —

参内殿 上段の間襖絵「漢の養蚕」

ようさん



参内殿上段の間の襖絵は「漢の養蚕」と題された16面で、安政内裏造営(1855年)の際に土佐光文が画きました。

蚕を飼育して、その繭から生糸を採る養蚕は、我が国では、弥生時代には中国から伝わっていたとされています。

養蚕には、一年を通して様々な作業があります。襖絵には中国漢の時代の養蚕農家の様子が場面ごとに画かれています。



①給桑…蚕に桑を与える作業



②繭切り…中で羽化した蚕蛾が出やすくなるよう、繭の両端を切り落とす作業。蚕蛾を交尾させて卵を採ります。

近代皇室の御養蚕は、明治4年(1871年)に昭憲皇太后が始められ、その後の歴代皇后がお続けになり、皇室御養蚕という伝統となって継承されています。皇后陛下はこれを引き継がれ、紅葉山御養蚕所で一連の作業をなさっています。



③繰糸…繭から糸を巻き取る作業

たちばな
右近の 橘



「左近の桜」は、《京都》御所と離宮の葉其の四で紹介しましたが、今回は「右近の橘」を紹介
します。

右近の橘は左近の桜と対で、紫宸殿南庭西側
に植えられています。

現在京都御所に植えられている右近の橘は、
それまで植えられていた右近の橘が安政5年
(1858年)に枯れたため、当時京都御所東側に
あった学習院(開設当初(弘化4年・1847年)は学
習所と称す)に植えられていた橘を移植したも
のです。

樹齢が170年以上を経過しているため、やや弱ってきているので、花が咲き実をつけると木に負担がかかるため、できる
だけ花を摘み取っています。



昭和2年7月23日に撮影された右近の橘
(京都事務所保存のガラス乾板より)



現在の右近の橘



橘の実



橘の花

橘はミカン科の常緑小高木で、6月頃に白い花弁を5枚つけ、7月頃に2~3cmくらいの黄色い実をつけます。味は酸味があり
ます。

因みに毎年11月に天皇陛下から親授される文化勲章のデザインは、勲章には橘の花が、鈕(勲章と綬のあいだにあるも
の)には実と葉が使用されています。

しとみど
蔀戸



蔀戸は、平安時代に主に内裏や貴族の邸宅で、日光や風雨を遮るために使われた建具です。

京都御所内の蔀戸は、中心に板ごふんを入れ胡粉を上塗りし、外側は縦横に木を組んだ格子で挟み(内側は横棧のみ)、黒漆を塗ってあります。

通常蔀戸は長押しなげしに蝶番ちょうつがいで固定され、閉まっていますが開ける時は撞木しゅもく(写真:①)と呼ばれるT字型の棒


で、内側(外側)に跳ね上げて、垂木から吊されているL字形の吊り金物に引っかけて固定します。この形式の蔀戸は、紫宸殿・清涼殿などで見ることができます。

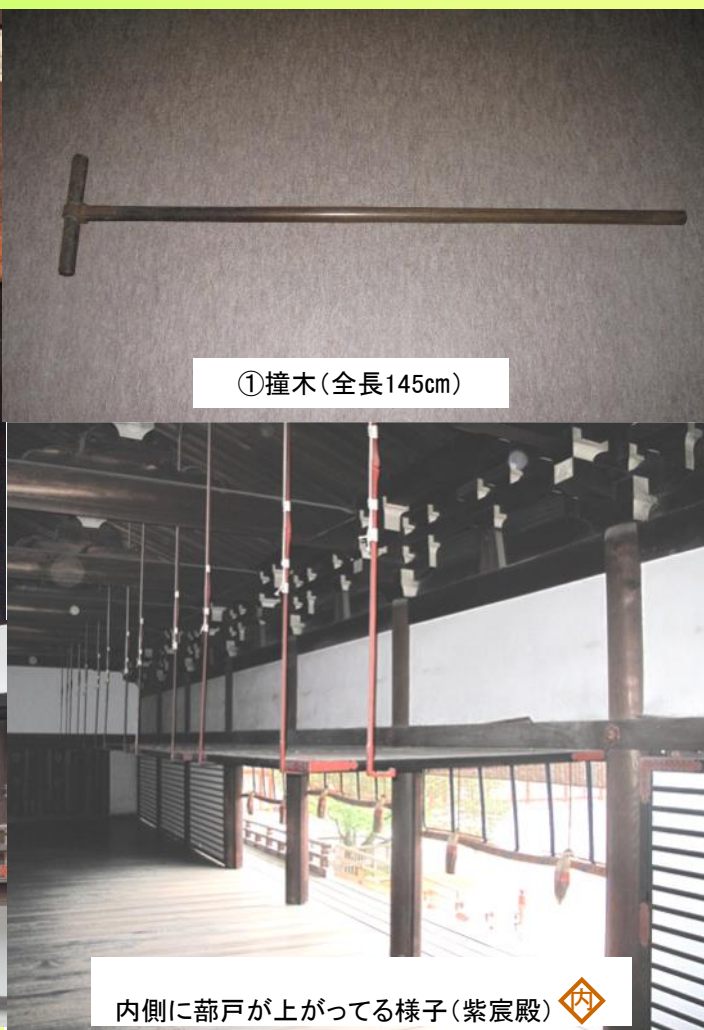
紫宸殿の蔀戸1枚の大きさは、幅270cm 高さ230cmで、重さは未計測ですが、開閉する際は大人4人以上の力が必要になります。

蔀戸の種類には他にも、半蔀、立蔀、折り上げ蔀といったものがあります。




胡粉で上塗りした板の上に、黒漆の格子

蔀戸が閉まっている状態(紫宸殿北側) 

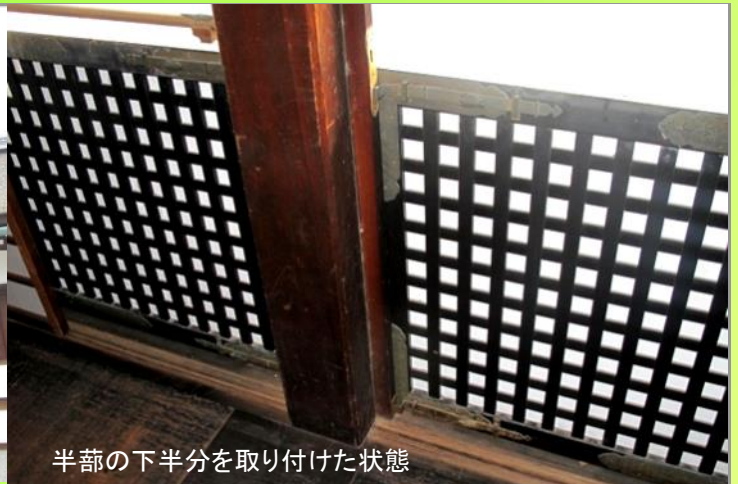


①撞木(全長145cm)

内側に蔀戸が上がってる様子(紫宸殿) 



②半蔀(小御所) 観殿



半蔀の下半分を取り付けた状態

半蔀(写真:②)とは、上半分は蔀戸と同様の仕様となっておりますが、下半分は取り外しが可能な柱にはめ込み式の蔀がはめられているものを言います。京都御所では小御所や御常御殿の南側で見ることができます。



③立蔀(陣の座 東側) 殿



陣の座(南東側) 殿

立蔀(写真:③)とは、庭上などに目隠し用として設けられた、はめ込み式のものを言います。京都御所では紫宸殿東側の陣の座(近衛府の官人が陣を設けたところ)や清涼殿の南側などにあります。



④折り上げ蔀(清涼殿) 観殿



折り上げ蔀・拡大

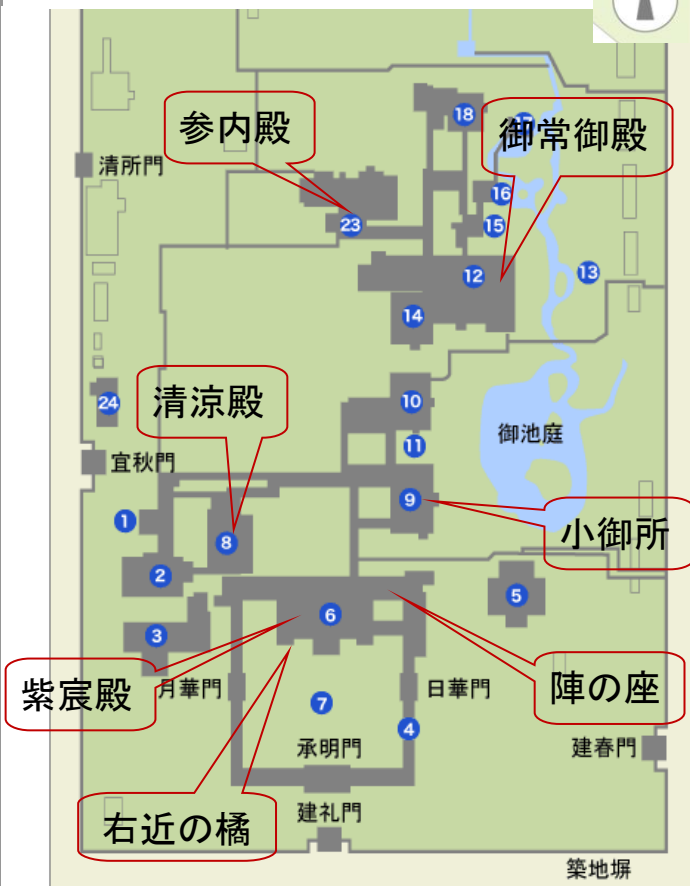
折り上げ蔀(写真:④)とは、上に跳ね上げる部分の中央が折り曲げられるようになっている蔀のことで、折り曲げた後に外側に跳ね上げて吊り金物で固定するという少し違った形状をしています。京都御所では清涼殿北側滝口付近で閉まった状態ですが、見ることができます。

マークは、御所・離宮の外側から、いつでもご覧になれます。

マークは、参観でご覧になれます。申込み方法は、[参観要領 - 京都御所 \(kunaicho.go.jp\)](http://kunaicho.go.jp) [参観要領 - 桂離宮 \(kunaicho.go.jp\)](http://kunaicho.go.jp) をご覧ください。

マークは、春と秋には申込みが必要のない一般公開の際にご覧になれます。下記にて日程等をご確認ください。参観要領 - 京都御所 (kunaicho.go.jp)

京都御所案内図



- | | | | |
|--------|-------|-------|--------|
| ①御車寄 | ⑥紫宸殿 | ⑪蹴鞠の庭 | ⑬御涼所 |
| ②諸大夫の間 | ⑦南庭 | ⑫御常御殿 | ⑭聴雪 |
| ③新御車寄 | ⑧清涼殿 | ⑬御内庭 | ⑮御花御殿 |
| ④回廊 | ⑨小御所 | ⑭御三間 | ⑯参内殿 |
| ⑤春興殿 | ⑩御学問所 | ⑮迎春 | ⑰参観者休所 |

桂離宮案内図



- | | | | |
|-------|------|------|-------|
| ①御幸道 | ⑥石橋 | ⑪月波楼 | ⑬住吉の松 |
| ②外腰掛 | ⑦松琴亭 | ⑫古書院 | ⑭桂垣 |
| ③蘇鉄山 | ⑧賞花亭 | ⑬月見台 | |
| ④洲浜 | ⑨園林堂 | ⑭中書院 | |
| ⑤天の橋立 | ⑩笑意軒 | ⑮新御殿 | |

これまでの「《京都》御所と離宮の栞」については、
宮内庁ホームページの[こちら](#)からご覧ください。

<問い合わせ先>

〒602-8611 京都市上京区京都御苑 3

宮内庁京都事務所 代表電話：075-211-1211

参観係直通電話：075-211-1215

其の八：平成26年5月28日発行

令和3年9月7日改訂